

南山形小学校見守りサポーター

南山形小学校では学校運営協議会において、「地域と学校の連携・協働」の活動により「先生と子どもたちが向き合う時間」を確保し、教育活動をより充実することを考えました。そこで、令和6年度末から「南山形小学校見守りサポーター」が給食の時間と清掃の時間に子どもたちを見守るという地域学校協働活動に取り組んでいます。

今年度は地域の回覧板を使って募集をし、5名の地域住民が「南山形小学校見守りサポーター」に登録しています。登録している方は、学区に住んでおり、孫が学校にいる方や子どもや孫が以前南山形小学校に通っていた方などです。

給食の見守りは毎週木曜日に行われています。都合のつく方が来ており、取材した日は3名のサポーターが参加していました。サポーターは学校に来ると職員玄関から入り、職員室に來ます。ネームプレートをつけ、自分が立つ場所をホワイトボードで確認してその場所へ向かいます。子どもたちは廊下でサポーターの方を見かけると自然とあいさつをしたり話しかけたりしていました。サポーターは「気を付けてね。」と声をかけたり、こぼれたところを拭いたり子どもたちの給食の運搬をサポートしていました。途中休憩をはさみ、片付けの際にも同じ場所に立ち、子どもたちを見守っていました。参加したサポーターの方は「給食中でもまるつけをしたり次の授業の準備をしたりと先生方は忙しい。先生方の力に少しでもなれたらいい。」「子ども達がハイタッチをしてきたり、あいさつをしてきたりして元気をもらえる。」「孫世代との交流ができてうれしい。」と話していました。

給食の時間は担任が安全確保のため給食室まで担任がついて行くことが多く、教室に担任が不在になってしまいます。地域住民が給食の見守りを行うことで、給食を運ぶ子どもも教室で待っている子どもも見守ることができます。

南山形小学校では学習でも地域の方々が関わっており、多種多様な人が関わることで子どもの成長につながっています。

令和8年度 地域とともにある学校づくり研修会

6月26日（金）に文部科学省国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官の志々田まなみ氏をお招きし、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について先進事例を交えながら御講演いただきました。

講演のあとはグループワークに移り、それぞれの立場でどのように学校運営協議会や地域学校協働活動に関わっているかを意見交換しました。今実践していることや、これから実践してみたいこと等を話し合いました。

参加者アンケート

- ・学校運営協議会についての理解が深まった気がします。子どもたちの多様性を考えると地域の教育力が大事です。そのためにも努力していきたいと思います。
- ・学校運営協議会のやり方が学校によって違っている。何をするのか、自分がやっていかなくてはならないことを考える時間になった。
- ・CS 委員に若者を入れるというアイディアは実践できそうである。持続可能な地域学校協働活動の仕組みをどう作っていくかが気になった。
- ・先日、本校でも学校運営協議会を行いました。委員の方々から様々な話は出りますが、では一体何をしていくのかがいつもはっきりしないなと感じていました。若い人を委員に入れる、一緒に何かやってみる、教職員への周知など、来年度に向けて考えていきたいと思います。
- ・私にとって、新たな視点で「学校づくり」について考えることができました。今までは、学校運営協議会は自分にとって身近なものではなかったので、よく知っていく必要があると感じました。
- ・初めて、社会教育の研修会に参加させていただきました。「地域の中にある」のではなく、「地域とともにある」学校でありたいと思いました。本校では、それがうまくいっていると感じるとともに、それを可能にしているコーディネーターの存在の大きさも実感しました。
- ・学校運営協議会の会の中身を充実させるためのヒントがたくさんありました。学校の実態に応じて活性化することができれば、学校も地域も WIN-WIN になると思いました。
- ・多様な子どもたちがいて教育のやりづらさを感じていた中で、「学びの手前」を埋めるための土台の必要性を感じた。地域と学校双方に WIN-WIN の関係がないと教育現場も苦しくなるのではないかと思った。

社教ニュースときたまごのバックナンバー及び山形市における「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」については、こちらからご覧ください。

